

▶ 株主の皆様へ

お客様が求める施工品質に徹底的にこだわり創業時から築きあげてきた「テノックス」ブランドを育み企業価値の向上に努めます。



代表取締役社長  
菱山 保

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第48期第2四半期株主通信TenoxREPORTをお届けし、決算の概要をご報告申し上げます。

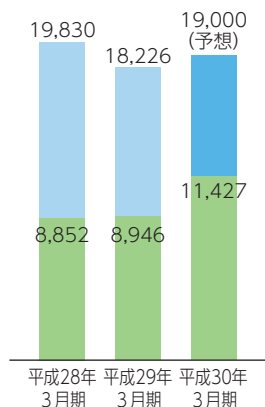
当第2四半期は、民間設備投資や公共投資の増加を受け堅調に推移した受注状況と建設資材価格の高騰等による建設費用の上昇等の要因が交錯する環境下、引き続き施工効率の改善やコストの削減等を推進し一層の採算向上に努めてまいりました。売上高は前下期に受注した大型工事の完成等により、また利益も採算の高い工事の完成等を受け、増収増益となっております。

今後の取り組みについては、杭工事では鉄道事業等の大口新規案件が見込まれており、地盤改良工事では、民間部門は集合住宅やショッピングセンター等、公共部門は学校、保育施設等に注力してまいります。また戸建て住宅向け商品であるピュアパイル工法は本年10月末時点で累計36,000棟を超え、引き続き伸張が見込まれております。またベトナムでの事業展開については、自社開発工法の公的認証が最終段階に入っております。

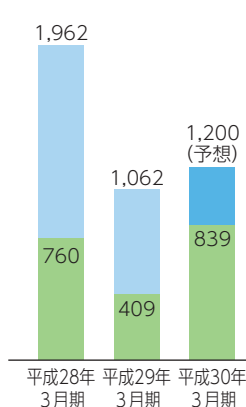
株主の皆様には、引き続き当社グループに対しご理解ご支援を賜りますようお願い致します。

▶ 第2四半期 業績ハイライト

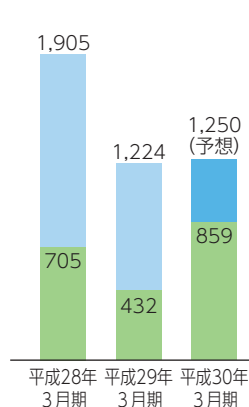
売上高  
114億27百万円  
(前年同期比 27.7%増)



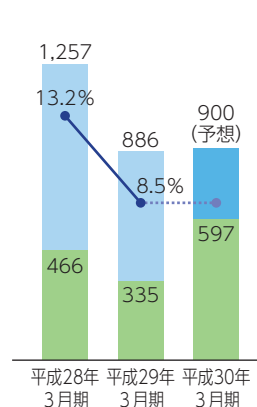
営業利益  
8億39百万円  
(前年同期比 105.0%増)



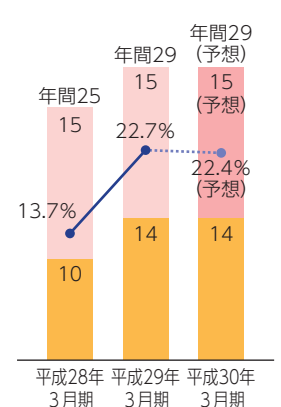
経常利益  
8億59百万円  
(前年同期比 98.5%増)



親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益  
5億97百万円  
(前年同期比 78.2%増)



1株当たり中間(年間)配当金



■ 第2四半期 ■ 通期 ■ 通期予想 (単位：百万円)  
● ROE

■ 第2四半期 ■ 通期 ■ 通期予想 (単位：円)  
● 配当性向

# 教えて テノックス

今回よりテノックスが取り扱っている工法について、わかりやすくご紹介してまいります。

## 「テノックスの技術」



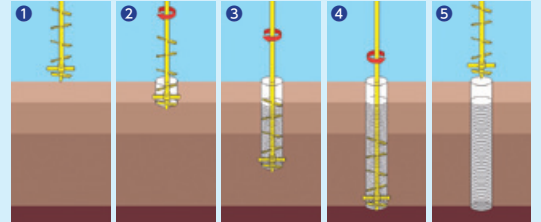
### テノコラム工法（深層混合処理工法）

第一回目は、当社の地盤改良工事の主力である「テノコラム工法」を取り上げます。「テノコラム工法」は独自技術の共回り防止翼を装着した攪拌装置により、原位置で土とセメントスラリー（水と固化材を混ぜたもの）を攪拌混合し、軟弱地盤を固めて良質地盤に改良する工法です。従来の地盤改良工事では攪拌する際に、攪拌装置と土と一緒に回転（共回り）するため、セメントスラリーと上手く混ざらないという欠点がありました。当社はその共回りを防止すべく独自の工夫（共回り防止翼）を施すとともに、人目に触れることのない地中の施工状況をリアルタイムに監視できる施工管理システムを自社開発し、安全・安心な商品を提供しています。

本工法は主に建築物の基礎地盤改良として用いられており、戸建て住宅、集合住宅から大規模ショッピングセンターや超高層建築物まで膨大な実績があり、最近では免震建物にも多く採用されています。テノコラム工法を採用した建築物は「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」「熊本地震」等の大地震においても無被害であり、本工法の信頼性が改めて実証されました。



- 1 攪拌装置をコラム心にセットし回転
- 2 所定空掘深度まで掘進（空掘掘進工程）
- 3 固化材液を吐出しながら掘進（注入掘進工程→攪拌混合→改良）
- 4 注入掘進工程（攪拌混合）が完了したら、固化材液の吐出を停止し、ロッドの回転方向を逆転した後、引き上げ工程（攪拌混合）開始
- 5 テノコラム施工を完了



## 第2四半期 連結決算概況

### ■ 四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前期末 平成29年3月31日現在	当第2四半期末 平成29年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	14,290	<b>POINT 1</b> 15,599
固定資産	2,489	2,449
有形固定資産	2,191	2,159
無形固定資産	44	39
投資その他の資産	253	251
<b>資産合計</b>	<b>16,780</b>	<b>18,049</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,225	<b>POINT 1</b> 5,988
固定負債	532	527
<b>負債合計</b>	<b>5,758</b>	<b>6,516</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	10,706	11,214
その他の包括利益累計額	36	42
新株予約権	63	60
非支配株主持分	215	215
<b>純資産合計</b>	<b>11,021</b>	<b>11,532</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>16,780</b>	<b>18,049</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>64.0%</b>	<b>62.4%</b>
<b>1株当たり純資産</b>	<b>1,548円68銭</b>	<b>1,614円60銭</b>

### ■ 四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	当第2四半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで
<b>売上高</b>	<b>8,946</b>	<b>POINT 2</b> <b>11,427</b>
売上原価	7,646	9,681
<b>売上総利益</b>	<b>1,299</b>	<b>POINT 3</b> <b>1,745</b>
販売費及び一般管理費	890	906
<b>営業利益</b>	<b>409</b>	<b>839</b>
<b>経常利益</b>	<b>432</b>	<b>859</b>
税金等調整前四半期純利益	469	873
四半期純利益	321	598
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>335</b>	<b>597</b>
<b>1株当たり四半期純利益</b>	<b>48円44銭</b>	<b>85円90銭</b>

#### POINT 1

主に大型工事が複数完成したことに伴い売上債権や仕入債務が増加

#### POINT 2

商業施設等の地盤改良工事が減少したものの、物流施設や文化施設を中心に大型の杭工事が増加

#### POINT 3

施工期間の長い工事が順調に進んだこと等により採算性が向上

## 会社概要 （平成29年9月30日現在）

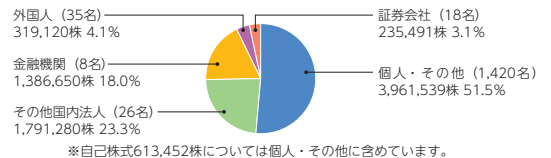
### ■ 会社概要

商号	株式会社テノックス
設立	昭和45年7月8日
資本金	17億1,090万円
従業員数	178人（連結267人）
本社	〒108-8380 東京都港区芝五丁目25番11号 ヒューリック三田ビル 5F TEL：03-3455-7790

### ■ 株式の状況

発行可能株式総数	21,640,000株
発行済株式総数	7,080,628株 <small>（自己株式613,452株を除く）</small>
株主数	1,507名

### ■ 株式分布状況



### ■ 大株主

株主名	所有株数（株）	持株比率（%）
住商セメント株式会社	432,000	6.10
有限会社福田商事	384,000	5.42
株式会社みずほ銀行	331,980	4.68
三菱商事株式会社	317,020	4.47
テノックス従業員持株会	286,740	4.04
明治安田生命保険相互会社	253,000	3.57
小川 恭弘	245,000	3.46
樽澤 憲行	233,840	3.30
大洋基礎工業株式会社	230,000	3.24
株式会社三井住友銀行	220,220	3.11

※当社は自己株式613,452株を保有しておりますが、上記大株主以外除外しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ■ 役員体制

代表取締役社長	菱山 保	執行役員	坂口 卓也
取締役常務執行役員	佐藤 雅之	執行役員	高橋 勝規
取締役執行役員	齋藤 貴	執行役員	倉島 孝
取締役執行役員	堀切 節	執行役員	児玉 勝久
取締役（監査等委員）	里見 雄冊	執行役員	又吉 直哉
取締役（監査等委員）	大森 勇一	執行役員	橋本 孔成
取締役（監査等委員）	竹口 圭輔	執行役員	迫田 一彦

※1. 監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
※2. 監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。